

あけましておめでとうございます



《年頭所感》

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願い申し上げます。

リーダーが社員に魅力を感じさせるためには、それ

ぞれの個性に基づく人間味があり、厳しい環境下にある経営の場において、日々の怠らぬ努力と研鑽を積んで、その個性に磨きをかけ、より高いレベルの自己を保持することが必要です。

そこで、「実践経営学」小川守正（PHP文庫）から抜粋して『リーダーの努力、研鑽すべき10ヶ条』を次に掲げます。

(1) 自己の信念を持ち、哲学を確立すること。

企業のリーダーは、社員より経験を積んでいる。その経験から仕事において社員より強い信念と高い見識を得ているはず。その信念の強さと見識の高さのレベルがリーダーとしての値打ちを決める1つの条件です。それが企業の経営理念となるべきものです。

(2) 仕事が好きで楽しみであること（松下幸之助）

『本当に会社が苦境になった時には、責任感や熱心だけでは保たん。君が本当に経営という仕事が好きやったら、そういうときでも、これをなんとかして立て直すのも好きな仕事のうちや、ということで、闘争心も湧いてくるし、楽しみも出てくる。苦しくても楽しさがあるから、知恵も生まれてくる。それでないと会社を建て直すということは、なかなか出来るもんやない。』・・・仕事に苦しみがあるとすれば、それは仕事の中に楽しみを見いだすことによって、解決すべきことであろう。

(3) 人から好まれ尊敬される品性、品格を備えること。

(4) 人に愛情を持っているか。

(5) 仕事には厳しく。

(6) 明るさ、ユーモア感覚を身につけること。

(7) 未来への夢をもつこと。

(8) 広い常識と先見力の培養。

(9) 任務の自覚と成長への努力。

(10) 健康を保つこと。

（写真は宮城県美術館にて）

財務諸表が読め、活用出来る社長に！

最近、「財務経営力」という言葉をよく耳にするようになったと思います。中小企業政策審議会が2011年12月に《厳しい内外環境を勝ち抜く自立的な中小企業を実現》していくための強化策の1つとされています。この意味は、《財務状況を認識し、それに基づいた的確な経営方針を構築する力》のことです。

中小企業が再生、自立していくためには、経営者自らが「数字」（会計）に明るくなり、PDCAサイクルを回して「強い会社」になっていくというものです。昨年、中小企業向けの新しい会計ルールとして「中小会計要領」と「中小企業経営強化支援法」が相次いで作られたのも、そのためです。以前は「会計で会社を強くする」なんて、だれも考えなかったかもしれませんが、「数字で商売ができるか」と、思っていたかもしれませんが、これは間違いです。社長が数字に強ければ、どのような経済状況のなかでも、黒字決算には出来ます。基本は原価管理です。直接原価と間接原価、固定費をカバーする粗利、今、月次決算のところは、次は、日次決算にして行きましょう。事務所はお手伝いさせていただきます。



《編集後記》

1 昨年、富良野の後藤純男美術館に行った時の写真です。右側にいるのが、息子です。札幌北高校を卒業後、1年浪人して東京大学法学部に合格

し、北海道を離れてから10年、昨年無事司法修習を終了し、弁護士となりました。どの試験も再度挑戦を繰り返し、努力は人一倍だったと思います。でも、あきらめずに、自分の夢をかなえることが出来ました。就職でも苦労をしましたが、今は大変忙しいところで自分を磨いています。何度も苦労した分、法律には詳しいです。また、とても優しい気持ちを持っています。なにかお困りのことがございましたら、相談にはのれるかと思えます。皆様よろしくお願ひいたします。（北高の野球部で3年間ファーストでした。身長180cm体重73kg私達には似ていないとよく言われます）

日本政策金融公庫 普通貸付金利 2.15% ~
 経営改善貸付 1.85%
 平成24年12月12日より